

2022 年度 「年度末学校関係者評価」(外部評価)

	<p>項 目 (重点としたものに○)</p>	<p>学校の目標達成状況及び学校の取組の適切さ、改善方策について等の意見(外部評価者からの指摘を基に記載)</p>
<p>教育環境の 充実</p>	<p>①学校安全の推進</p>	<p>・様々な行事が復活し始め、地域、保護者との協働が深まっていることが、学校安全の推進にも寄与している。</p>
	<p>②教育情報化の推進</p>	<p>・校舎内での児童の衝突事故の発生から、次の事故の未然防止のために、具体的な手立てをとっている。それは評価できるが、後手に回らないよう、日常の気付きから先手を打てるよう努めてほしい。</p>
	<p>③地域との協働推進</p>	<p>・気象災害時に保護者が自信を持って子どもを守るための行動がとれるよう、学校は適切な情報提供を続けてほしい。</p>
	<p>④学校評価を生かした学校づくり</p>	
<p>I 学習指導の 充実</p>	<p>①授業改善の推進</p>	<p>・単なる方法論に留まらない授業づくり、成果の発表よりも、「自分達はこのような授業づくりをしたのだが、皆さんどう思いますか?」という発信・提案に軸をおいた校内研究がなされている。</p>
	<p>②健康体力づくりの推進</p>	<p>・学級の枠にとらわれずに学年として教科学習を展開していくことを考えて実践する教員が増えてきていることは、池子小学校の特色を生かした授業実践に繋がるだろう。</p>
	<p>③体験活動の充実</p>	<p>・教育のDX化に対応できる学校・教員が求められる時代である。教職員間での協力体制を作り、児童のITリテラシーを高めていってほしい。</p>
	<p>④今日的課題への取組</p>	
<p>II 支援の充実</p>	<p>①支援環境の充実</p>	<p>・教職員が協働して児童の教育的ニーズに適切に対応するように努めている。</p>
	<p>②安心できる居場所づくりと絆づくりの推進</p>	<p>・SC、SSWの専門スタッフと適切に連携して、児童や家庭の支援に当たっている。</p>
	<p>③問題行動対策・不登校対策の推進</p>	<p>・バリアフリー、ユニバーサルデザイン等の表面的な対応だけでインクルーシブ教育としないという姿勢が見られる。全ての教員の日々の授業がインクルーシブな視点をもって行われるようにし、「誰も取り残さないインクルーシブな学校」を追求し続けてほしい。</p>
	<p>④幼・保・小及び小・中の連携推進</p>	
<p>III 学校組織の 充実</p>	<p>①学校・学年・学級経営の充実</p>	<p>・授業時間を精選し、長期休業前後に一定期間給食後下校とすることで、児童はゆっくりと学校生活のリズムを取り戻せるようになり、教職員もその時期に集中する事務仕事に充てる時間を確保している。</p>
	<p>②研究・研修の充実</p>	<p>・地域行事が復活し始め、教職員がそれぞれに負担のない範囲で関わっているとのこと。直接的には仕事量が増えるように見えるが、地域と関わりを持つことはまわりまわって子どもたちの育ちにつながることで、働き方改革にもつながるのだということを教職員が理解している表れであろう。</p>
	<p>③信頼に基づいた指導の推進</p>	
	<p>④働き方改革の推進</p>	

